

放流マツカワの産卵期及び産卵海域の解明

福島県水産試験場 栽培漁業部・相馬支場

1 部門名

水産業—栽培漁業—その他カレイ類

2 担当者

和田敏裕・佐藤利幸・神山享一

3 要旨

北海道沿岸を主分布域とする大型のカレイ類マツカワは、2006年から北海道で開始された100万尾規模の種苗放流により、北海道及び東北・常磐沿岸域で漁獲量が急増している。しかし、漁獲されるマツカワは天然魚がほとんど無く、自然産卵が確認されていない。北海道では、放流マツカワの自然産卵を促すことが今後マツカワ資源の維持・増大に必要な課題となり、知見が極めて少ない放流マツカワの産卵生態を解明することとなった。

2010年度から北海道を中心とする共同研究体制のもと、福島県では東北・常磐海域に分布する放流マツカワを対象に調査を実施し、これまで不明であった産卵期を解明するデータを得るとともに、産卵場をほぼ特定した。

- (1) 北海道及び福島県の漁獲統計を用いて月別漁獲量を比較した結果、北海道では放流マツカワが周年漁獲されるが、2月～4月の期間で漁獲量が極めて少なかった。福島県では、北海道で少ない2月～4月の期間で漁獲量が多く、北海道と福島県では漁獲される時期が異なった。
- (2) 北海道及び福島県に水揚げされた放流マツカワ(雌)の生殖腺を調べた結果、福島県水揚げの魚体標本では、北海道よりも成熟度合の進んだ個体が高い割合で確認された。
- (3) 月別漁獲量の推移と魚体の成熟特性から、放流マツカワの産卵期は2月～4月であり、産卵のため北海道沿岸から東北・常磐海域へ移動することが示唆された。
- (4) 福島県に所属する沖合底びき網漁船の操業記録を解析し、東北・常磐海域における放流マツカワの分布域を調べた結果、放流マツカワの漁獲される海域は、いわき市南部から千葉県犬吠埼にかけての水深300m付近であり、この海域が産卵場であることをほぼ特定した。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成22年度～25年度
- (2) 研究課題名 栽培漁業対象種の放流技術に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

Wada T, Kamiyama K, Shimamura S, Yoshida T, Kayaba T, Sasaki M (2013) Detection of fishing grounds, fishing season and size distribution of stocked barfin flounder *Verasper moseri* in southern Tohoku, the Pacific coast of eastern Japan. *Aquaculture Sci.* 61, 39–46.